

『ズートピア』

2016 年／アメリカ／バイロン・ハワード、リッチ・ムーア監督作品

動物たちが教えてくれる人権

会員 吉永 寛子 (62 期)

独身の頃は、よく 1 人でローカル映画館に 2 本立て映画を観に行った（ケチなので）。2 本立てだと意外な作品にも出会えて、自分の人間性が上がっていく錯覚に酔えた。メジャーどころは殆ど観ないくせに「趣味は映画鑑賞です」などと嘯いていたものだ。

ところが、2 人の子の母親になった今となっては、映画といえば TV 放映のジブリかディズニーであり、録画して 1 日に 3 回同じ作品を観させられることもある。

もっとも、名高いジブリやディズニーだけあって、大人にも十分見応えがあり、夢中にさせ、けっこう考えさせられたりする。アニメといえども、いやアニメだからこそ表現できる世界観、子どもでも楽しめるストーリーで、世の中の深い所をチクリと刺してくる。

そんなわけで今回ご紹介させて頂くのは、お子様たち大好きなカワイイ動物が繰り広げるディズニーの「ズートピア」である。あらすじはこうだ。

【全動物が進化して人間のように言葉を話し、職業をもち、文化的に生活する世界。そこにはズートピアという大都市があり、皆が平等で、誰もが努力すれば何にでもなれる、夢が叶う街であるという。そんな憧れのズートピアにやってきたウサギのジュディ。彼女は、今まで「小さく非力なウサギになるなんてあり得ない」とされていた警察官の養成学校をトップの成績で卒業し、エリートの課に配属された。しかしながら、彼女に回される仕事は駐車違反の取締ばかり。燦る彼女はある日キツネのニックと出会う。ニックは、小さな頃からキツネというだけで悪者呼ばわりされ、

大人になってからは詐欺師として生きていた。とある事件の捜査に名乗りを上げ、48 時間以内に成果を出さなければクビと上司に言われたジュディは、ニックとともに命運を賭けた捜査活動を開始する。】（やがて 2 人は恋に落ち…は、無いです。）

動物が「進化」して人間化というのが欧米だなあと思ったり、ご都合主義なきらいはあるが、そんなことよりこの作品が『差別』『スティグマ』を徹底的にテーマにしていることに、初見で驚いた。上記の通りウサギは可愛いだけでタフな仕事は無理、キツネは狡くて信用できない、という他にも多数散りばめられている。そして鑑賞後は、差別はやめ、多様性を尊重し 1 人 1 人の個性や能力を大切にしよう、スティグマで夢や機会を奪ってはならない、という想いが自然と湧き起こってくる。まさに、個人の尊厳（憲法 13 条）という人権の大原則を突きつけてくる内容だ。動物たちに、人権の基本のキを教わるのだ。

欺瞞に満ち、様々な社会問題を抱えた現実とは思ったようにはいかない。しかし、自分やお互いを知り、認め合うことで、理想郷「ズートピア」を作っているという最後のジュディのスピーチは、世の全ての施政者が心に留めおく必要があるのではないかと浸る時間を、うちの 5 歳児と 2 歳児はなかなか与えてくれないが、きっと彼らにも刻まれていることだろう。疲れた頭を癒すのに 1 人でビール片手に観るもよし、家族全員で観るもよし、そして道徳の授業で子どもたちに観て欲しいと思える極上のエンターテインメント作品である。ぜひ皆様もご鑑賞下さい。